

# 最新動向を解説

## ゼネコンなど50人参加

鉄筋継手研究会  
第2回例会  
が

鉄筋継手研究会の第2回例会が6月29日、福岡市博多区の福岡商工会議所で開かれた。例会には、ゼネコン、設計事務所、鉄筋工業業の関係者ら約50人が出席し、「管理と工業化とコスト」をテーマとする講演で鉄筋継手をめぐる最新の動向に理解を深めた。写真。

冒頭、研究会の事務局を担当する河村貴夫アクトイス代表が、鉄筋継手工法の認定・評定、管理資格者の認定、仕様書の改定など「鉄筋継手をめぐる状況が複雑化していることを懸念している」とし、「研究会は品質と施工管理を合めた正しい鉄筋継手の理解を深め、最新技術を活用した



トータルなコストダウンを考へることを目的としている。研究会で鉄筋継手に対する正しい理解を含めていただきた

い」とあいさつした。

例会では、角陸純一清水建設生産技術本部品質管理部検査グループ長が「鉄筋溶接継手工事品質・施工管理のポイント」塚本修史前田建設九州支店作業所長が「工業化工法への取組と鉄筋継手の実例」サイクル工程5日への挑戦、降旗達生ハタコンサルタント代表が「建築工事原価低減の基本②」について、それぞれ講演した。

角陸氏は、鉄筋継手全般について現状やそれぞれの種類

の特徴などを紹介した上で、現在の品質管理上の課題として、継手工法の多様化と過大なコスト競争、作業員の技量や現場管理能力の低下による品質に対する不安、施工後の検査方法の信頼性などを挙げるとともに、これに対応する標準仕様書など基準改定の動向を説明した。

また、溶接継手についても溶接工の技量に左右される継手性能など、現状と課題を説明し、超音波検査や引張試験などによる検査と品質管理の

重要性を訴えた。

塚本所長は、自らが施工を担当し、2008年3月に完成した福岡市内の超高層マンション（RC造20階建て延べ1万5567平方メートル、住宅432戸）で、工業化手法の取り組みを紹介した。

PC化による工期短縮を念頭に、躯体工事の1フロアを5日サイクルで施工する工程計画を立てた。当初は8階部分から5日サイクルとする予定だったものを、クレーンの遊び時間を減らし、とび職人

らの協力を得ることでスムーズに運び、5階部分から5日サイクルで施工した。また、エンクローズ溶接（旧NKE工法）による鉄筋継手が品質と施工精度の確保に貢献したことも紹介した。

また、降旗代表は、第1回例会に続いて建設業の原価低減について講演し、管理的なアプローチと戦略的なアプローチの両面からの考え方をアドバイスした。

研究会では、第3回例会を12月に予定している。